

自立・社会参加に向けた高等学校段階における特別支援教育充実事業

キャリア教育・就労支援等の充実事業

平成27年度予算額 274百万円 (平成26年度予算額 319百万円)

特別支援学校高等部の就職率(28.4%)の一層の向上に向けた取組が必要

→ 企業等のニーズや実情を踏まえた授業の改善・充実

→ 早期からのキャリア教育等の推進(小・中・高等部の系統的なキャリア教育)

高等学校の発達障害の生徒への指導の充実が必要

→ 特別支援学校のノウハウを取り入れた指導の改善・充実

障害のある生徒が自立し社会参加を図るために、高等学校段階におけるキャリア教育・職業教育を推進し、福祉や労働等の関係機関と連携しながら就労支援を充実することが必要である。また、とりわけ高等学校においては、発達障害のある生徒に対して、特別支援学校高等部のセンター的機能を活用しながら、適切な指導や支援を行うことが必要である。

このため、労働、福祉の関係機関等と連携し、高等学校段階におけるキャリア教育、就労支援等の充実を図る事業を実施する。

モデル地域における取組

(就職支援ネットワーク会議の設置)

モデル校の改善プランの検討・評価

特別支援学校が核となって地域の労働関係機関等とのネットワークの構築を図り、モデル校(特別支援学校、高等学校)の改善プランの検討・評価。

教員の研修の実施

障害者を雇用する企業現場等での実情を踏まえた指導の充実が図れるよう、教員の研修プログラムを開発し、企業での体験研修等を実施。

技能検定等の開発

生徒が目的意識を持って学習意欲を高めたり、就職の際に在学時の学習の成果を証明したりする上で活用できるよう技能検定等を開発・実施。

ハロー
ワーク

モデル校における取組

(特別支援学校、高等学校)



企 業

コーディネーターの配置

- 就労先・就業体験先の開拓
- 体験時の巡回指導 等

特別支援学
校高等部

支援(センター的機能)

個別の教育支援計画
発達障害のある生徒への指導の改善・充実

高等学
校

(企業等の
ニーズや実情等)

授業の改善・充実(例)

- 小・中・高等部での現場実習等体験活動の実施
- 新しい職業に関する教科等の開発
- 校内での模擬店舗実習
- 長期間の現場実習
- 現場実習の評価シートの開発 等

授業の改善・充実(例)

- 個別の教育支援計画の作成・活用
- ソーシャルスキルトレーニングの実施
- 社会人としての生活に関する講話
- 自己理解、環境調整、人に支援を求めるなどの指導
- 就業体験の実施 等

発達障害
者支援セン
ター

中学部・
中学校

小学部・
小学校

(系統的なキャリア教育)

障害者の雇用を支える連携体制の構築・強化(平成25年3月厚生労働省職業安定局長通達、文部科学省初等中等教育局長通知)

※平成26年3月31日 一部改正



障害者の自立と社会参加の推進

-1-

